

指定管理業務点検・評価シート(令和元年度業務)

令和2年7月31日

施設名	とっとりバイオフロンティア	所在地	米子市西町86番地
施設所管課名	商工労働部産業振興課	連絡先	0857-26-7244
指定管理者名	公益財団法人鳥取県産業振興機構	指定期間	令和元年度(平成31年度)～令和5年度

1 施設の概要

設置目的	バイオ産業の集積の形成及び活性化を図り、県内産業の振興に寄与する。
設置年月日	平成23年4月1日
施設内容	○建築面積:1,260.84㎡ ○施設内容:研修室1、機器分析室1、遺伝子実験室1、細胞実験室1、実験室4、居室4、動物飼育室4、管理室1、オープンラボ1
利用料金	(別表のとおり)
開館時間	午前9時～午後5時 ただし、セキュリティーカードを使用することで、開館時間外の利用も可能な場合あり。
休館日	○日曜日、土曜日、国民の祝日 ○12月29日～1月3日 ただし、セキュリティーカードを使用することで、休館日の利用も可能な場合あり。

2 指定管理者が行う業務

委託業務の内容	○施設設備の維持管理に関する業務(施設設備の保守管理、修繕、清掃、保安警備等) ○施設設備、機器の利用の許可、利用料金の徴収等に関する業務 ○その他施設の管理運営に必要な業務(利用者の受付・案内、付属設備・備品の貸出、利用指導・操作、利用者へのサービスの提供、施設の利用促進、その他施設の管理運営に必要な業務) ○利用者の研究開発・事業化の支援に関する業務(相談・問い合わせへの対応、情報収集・情報提供、産学官連携の推進等) ○バイオ産業に従事する専門的な人材の育成に関する業務
---------	---

3 施設の管理体制

管理体制	<p>正職員:2名、任期付職員:5名、非常勤職員:1名〔計8名〕</p> <p>【組織及び職員の配置等】 管理運営の組織 <本部> (代表理事理事長) ↓ (事務局長) — スタッフ(事務担当)(1) ↓ <とっとりバイオフロンティア> ↓ バイオフロンティア推進室長(1) (施設長兼務) ↓ 施設長 — 副施設長(1) — 係長 — スタッフ(総務管理担当)(1) (室長兼務) (係長兼務) (副施設長兼務) スタッフ(機器担当)(1) ↓ バイオマネージャー(1) — 事業推進コーディネーター(1) ↓ 人材育成担当コーディネーター(1) (動物飼育員(アルバイト1)) (実験動物管理者)</p>
------	---

4 施設の利用状況

利用者数(人:貸 実験室等入居者 含む)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	元年度	2,875	2,905	2,783	3,152	3,050	2,905	3,219	3,130	3,008	3,095	3,097	2,990
30年度	3,077	3,253	3,145	3,321	3,329	3,190	3,474	3,219	3,110	3,072	2,912	3,105	38,207
増減	△ 202	△ 348	△ 362	△ 169	△ 279	△ 285	△ 255	△ 89	△ 102	23	185	△ 115	△ 1,998

利用料金収入 (千円)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	元年度	1,023	1,025	1,052	1,042	1,051	1,029	1,043	1,073	1,056	1,070	1,101	1,070	12,635
	30年度	1,069	1,063	1,025	1,005	1,062	1,061	1,037	1,103	1,064	1,052	977	1,014	12,532
	増減	△ 46	△ 38	27	37	△ 11	△ 32	6	△ 30	△ 8	18	124	56	103

5 収支の状況

(千円)

区 分		元年度	30年度	増 減	
収入	事業収入	賃借料	8,444	8,316	128
		動物実験棟使用料収入	0	609	△ 609
		機器使用料	4,191	4,216	△ 25
		その他	698	2,629	△ 1,931
		小計	13,333	15,770	△ 2,437
	事業外収入	光熱水費負担金等収入	5,392	5,539	△ 147
		自動販売機手数料	156	148	8
		受取利息	0	0	0
		県委託料	58,574	67,782	△ 9,208
		小計	64,122	73,469	△ 9,347
計		77,455	89,239	△ 11,784	
支出	人件費	23,445	28,162	△ 4,717	
	管理運営費	54,010	61,077	△ 7,067	
	計	77,455	89,239	△ 11,784	
収支差額		0	0		

6 労働条件等

確認項目	状況			備考	
	正職員	任期付職員	任期付職員 (本部常駐スタッフ)		
雇用契約 ・ 労使協定	労働条件の書面による提示	就業規則、 任用条件通知書	就業規則、 任用条件通知書	就業規則、 任用条件通知書	※書面の名称を記入
	就業規則の作成状況	有	有	有	※常時10人以上の労働者を雇用する場合は作成、届出が必要
	労使協定の締結状況	時間外労働及び休日労働に関する労使協定	時間外労働及び休日労働に関する労使協定	時間外労働及び休日労働に関する労使協定	※労働基準監督署長への届出が必要な協定の有無
労働時間	所定労働時間	7.75時間以内/日、 38.75時間以内/週	7.75時間以内/日、 38.75時間以内/週	7.75時間以内/日、 38.75時間以内/週	※幅がある場合は上限、下限を記入
	時間管理の手法	自己申告	自己申告	自己申告	※タイムカード、ICカード、自己申告、使用者の現認などの別を記入
	休暇、休日の状況	休暇:年20日 休日:毎週土・日曜日、 国民の祝日	休暇:年20日 休日:毎週土・日曜日、 国民の祝日	休暇:年20日 休日:毎週土・日曜日、 国民の祝日	※幅がある場合は上限、 下限を記入
給与	給与金額	270千円/月	275千円/月	175千円/月	※平均月額を記入
	最低賃金との比較	適	適	適	※適否を記入
	支払い遅延等の有無	無	無	無	※有無を記入
安全衛生	一般健康診断の実施	年1回実施			
	産業医の選任	選任の要否:否	選任状況:選任なし		※規模の要件あり
	安全管理者の選任	選任の要否:否	選任状況:選任なし		※業種・規模の要件あり
	衛生管理者の選任	選任の要否:否	選任状況:選任なし		※規模の要件あり
	安全衛生推進者(衛生推進者)の選任	選任の要否:否	選任状況:選任なし		※業種・規模の要件あり

(参考)

○労働基準監督署長への届出が必要な労使協定の例(労働基準法に基づくもの)

- ・労働者の貯蓄金をその委託を受けて管理する場合(労働基準法第18条)
- ・1ヶ月単位の変形労働時間制(労働基準法第32条の2 就業規則に定めた場合には届出不要)
- ・1年単位の変形労働時間制(労働基準法第32条の4、第32条4の2ほか)
- ・1週間単位の変形労働時間制(労働基準法第32条の5)
- ・時間外労働・休日労働(労働基準法第36条 いわゆる「36協定」)
- ・事業場外労働のみなし労働時間制(労働基準法第38条の2 事業場外労働が法定労働時間内の場合は不要)
- ・専門業務型裁量労働制(労働基準法第38条の3)

○各種管理者等の業種・規模に係る要件(労働安全衛生法に基づくもの)

種別	業種	規模(常時使用する労働者数)
産業医	全ての業種	50人以上
安全管理者	林業、鉱業、建設業、運送業、清掃業、製造業(物の加工業を含む。)、電気業、ガス業、熱供給業、水道業、通信業、各種商品卸売業、家具・建具・じゅう器等卸売業、各種商品小売業、家具・建具・じゅう器小売業、燃料小売業、旅館業、ゴルフ場業、自動車整備業及び機械修理業	50人以上
衛生管理者	全ての業種	50人～200人(1人選任)
		201人～500人(2人選任)
		501人～1,000人(3人選任)
		1,001人～2,000人(4人選任)
		2,001人～3,000人(5人選任)
安全衛生推進者	安全管理者と同じ	10人以上50人未満
衛生推進者	安全管理者の選任を要する業種以外の業種	10人以上50人未満

7 サービスの向上に向けた取組み

区分	取組み内容
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度人材育成研修・セミナーを開催した(開催回数22回、参加者数延べ424名)。 ⇒バイオに関する知識、動物実験技術の向上、知的財産等に関する講座を開講し、バイオ産業が必要とする人材の育成を支援した。(開催回数10回、参加者数延べ272名) ⇒利用者から要望のあった実験分析機器のメーカー担当者による使用に係る説明会・研修会を行った。また、実際の使用時にも担当職員による機器使用のサポートを行うことにより、利用者のスキル向上につなげた。(開催回数9回、参加者数延べ72名)。 化学物質のリスクアセスメント研修等を実施し、法令や最新の知見に基づいた適切な安全管理を行った。 創業ベンチャーの起業・育成のためバイオに関する技術・知識に加え、起業や経営能力を兼ね備えた人材育成が必要であることから、バイオベンチャー、鳥大教員及び学生等を対象に「バイオビジネス/アントレプレナー育成講座」を実施。(開催回数3回、参加者数延べ78名) ⇒(例)IPOセミナーin鳥取、アカデミアの知財と頭脳を活用したバイオアカデミア株式会社の戦略等 県内企業及び学生等に対して、専門性の高い実践的なカリキュラムを提供し、人材育成を進めている。
設備整備	<ul style="list-style-type: none"> 施設備品として保有している実験器具に関し、仕様手順書を作成し、適正な実験が行えるよう支援した。 「とっとりバイオフロンティアの管理運営に関する協定書」に基づき定めた「とっとりバイオフロンティア化学物質管理規則」に基づき、実験、施設管理で必要となるキシレン、メタノールなどの薬品・有害物については、施錠してある倉庫内の薬品庫に保管し、管理台帳を基に使用に関し厳重に管理した。 職場の巡視、化学物質管理委員会の実施等、入居企業・開放実験室利用者への実験環境の整備を行った。 実験機器については、日々動作確認を行い、不調等が確認された場合は速やかに設置業者またはメーカーによる対応を行った。 実験の実施に当たっては利用者が各種法令に基づく適正な実験や動物管理が行えるようマニュアルを整備した。 動物実験実施者が施設及び実験機器をより利用しやすくなるように管理マニュアルを整備した。 実験を行うに当たっては実験者からの申請書を基に、動物実験委員会、遺伝子組換え実験安全委員会において審査を行い、適正な実験管理を実施した。 利用者の意見を聞き、使用頻度が高い実験分析機器を新たに導入し、利用者の利便の向上を図った。(詳細は「8利用者意見への対応」に記載) 利用者からの要望のあった実験分析機器メーカー担当者による使用のサポートを行うことにより、利用者のスキルの向上に繋がった。(再掲) 建築基準法に基づく、年一回の防火シャッターの点検を実施した。
事業化支援	<ul style="list-style-type: none"> 日頃より、バイオ関連学会・セミナー等に積極的に参加し、バイオ関連情報の収集に努め、施設利用者に最新のバイオ業界の動向やバイオ関連企業のニーズなどの情報提供を行った。 バイオ系の大型展示会に3回出展し、製品・技術のPRを支援した。 (第一回ファーマラポEXPO(2社)、Bio Japan2019(4社)、第6回再生医療EXPO[大阪](3社)) 日欧産業協力センターのBIOヨーロッパへのブース出展に併せ、県内企業3社がポスター展示を行った。 バイオ分野の特許に関する知識を活用し、事業化に重要な知財戦略をサポートした。 県内企業及び県外製薬企業などを訪問し、施設への入居及び開放機器の利用案内を行い施設利用促進に向けての活動を行った。 利用企業等が持つ資源と大手製薬会社とのマッチングなどのコーディネートを積極的に行った。 平成26年度からスタートした鳥取大学のキノコ菌株コレクションを活用した産学官の共同事業「きのこプロジェクト」を継続支援。機構は各機関の調整役となり米子と湖山において多くの会議を開催し、事業化戦略・外部との連携においては中心的な役割を担い、地域活性化を目指す産学官の共同事業の推進に貢献した。(令和元年度で終了)

その他	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度より鳥取大学臨床実験施設5階動物飼育室が指定管理区域外となったことから、円滑な実験が行える環境を整えるため、動物飼育機材の準備業務を委託している業者、設備提供を受けている鳥取大学等との連絡調整を行った。 日本バイオインダストリー協会や日経バイオテック主催のセミナー等に積極的に参加し、情報収集と人的ネットワークの構築に努めた。 専門展示会出展及び学会・セミナー等に参加し、関係者に対する施設説明、パンフレットの配布などを行い関係者への周知を図った。 ホームページ、facebookを利用し、施設の目的・概要から利用料金まで幅広い情報発信を行った。 企業へのPRを意識したパンフレット、DVDの制作、イベント時に資料を入れる紙袋やクリップ等のノベルティグッズを企画・作成してイベント時に配布した。 とっとりバイオフロンティアとして、とっとり産業技術フェア2019に出展し、鳥取県民への周知活動を行った。 県内企業及び県外製薬企業などを訪問し、施設への入居及び開放機器の利用案内を行い、施設利用促進に向けての活動を行った。
-----	---

8 利用者意見への対応

利用者意見の把握方法	利用者の要望、意見については、利用者への説明会兼意見交換会や入居企業へのヒヤリング等の際に把握した。また、日々利用者とのコミュニケーションを図り、要望への対応、課題の解消に努めた。
------------	--

利用者からの苦情・要望	対応状況
新しい機器を導入して欲しい。	組織として必要な機器の要望書を取りまとめ、意見調整のうえ、令和2年度の機器購入計画を作成した。
新規利用者講習をして欲しい。	利用者が増加し、入れ替わりも多くなってきたことから、5月上旬に2日間(延べ4回)の講習を実施した。
(遺伝子組換え)実験の審査の手続きを迅速化して欲しい。	簡易審査の手続きについて、規定の整備に着手した。
館内設置の実験機器について、修理履歴等のメンテナンスに関する情報開示を求められる機会が増加しているため、共用の実験機器について、標準作業手順書(SOP)を作成して欲しい。	機器毎の点検記録の整備等を含め、保守管理方法を改めて検討し、機器保守管理標準作業手順書(SOP)を順次整備している。

利用者からの積極的な評価	<ul style="list-style-type: none"> 全国各地にインキュベーション施設はあるが、研究用の機器まで揃っているところは少ない。 安価に使える、実験・研究の環境が整っている。 企画されている研修講座の質が高く、継続して受講させて欲しい。 大学の施設の中にあり、研究棟とつながっていることが研究の環境として素晴らしい。 展示会出展及びセミナー等がきっかけとなり共同開発へと発展した。 機器使用の説明会等を企画し参加することで研究の効率と進捗の向上が図られる。
--------------	---

9 指定管理者による自己点検

<p>【成果のあった取組み・積極的に取り組んだ事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイオフィロンティアの人材育成講座の中で「バイオビジネス／アントレプレナー育成講座」を企画し、バイオ産業に必要な人材育成の支援を積極的に実施した。 ・技術士補、実験動物技術者等の資格試験に向けた対策講座を開催し、施設利用企業等が必要とする人材の資格取得を支援した。 ・WEB会議システムを導入したことで遠隔セミナーの開催が可能となり、県西部以外の受講者にも広く参加の機会を提供できる体制が整った。また、セミナーだけでなく、装飾業者審査会や入居者の社内会議にも広く使用され、年度末の新型コロナウイルス流行の時期には利用者が大幅に増加し有効活用されている。 ・展示会出展は、例年通りの主要な大型展示会のみであったが、出展効果や集客効果を高めるためにアンケート調査やイベントなどの新たな取組みを実施した。 ・セミナー・学会等に積極的に参加し、バイオフィロンティアのPRを行うとともに、研究成果の事業化に向け、人工染色体技術に関するPR、マッチングの可能性について提案した。 ・鳥取大学や入居企業からのバイオテクノロジーに関する特許の調査依頼に対応し、産学が中心となって進める知財戦略をサポートした。 ・鳥取県民への「とっとりバイオフィロンティア」の認知度を高めるため、とっとり産業技術フェアに出展し、広く一般県民に広報することができた。特に未来を担う子供たちに医療・化学などに興味を持ってもらうような工夫を凝らしたブース作りを試み、多くの来場者があった。 ・公益財団法人鳥取県産業振興機構、鳥取大学、入居企業の3者の連携で進められたキノプロジェクトは6年間も継続し、複数の機能成分の特定に至るなど一定の成果を収めた。(令和2年度末で終了) ・日本バイオインダストリー協会が主催する「創薬モダリティー基盤技術研究会」の会員となり、バイオ創薬を対象とした国の補助事業への参画に向けた企業/アカデミアの動向について情報を収集した。

<p>【現在、苦慮している事項】【今後、改善・工夫したい事項・積極的に取り組みたい事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居室等が満室で今後の研究等の進展でベンチャーや共同研究参画社の入居希望に応えられない状況にある。入居者からのスペース拡大や県内外からの入居希望もある一方、入居企業の事業が自立して退出するまでには育っていない。入居企業の自立を視野に入れた中長期的なビジネスプランの構築と入居企業の循環が課題。 ・開放機器の経過年数等に伴う劣化への対応(修繕等)と中長期的な機器更新が課題。 ・事業及び研究支援と併せて、経営(知財、財務管理、IPO等)に関する支援等の取組みも継続的に推進する。 ・創薬、医療機器分野等の先端技術分野での起業、事業化に対しては、今後とも重点的な支援に努めるとともに県内企業及び学生等に対して専門性の高い実践的なカリキュラムを提供し人材育成を進める。 ・インキュベーション施設としての役割においては、入居企業の卒業に向けての出口戦略が不明瞭。米子市と県との連携も必要。 ・とっとりバイオフィロンティア開設10周年記念行事の開催(同時にパンフレットやホームページの改訂)
--

10 施設所管課による業務点検

項目	評価	点検結果
<p>【施設設備の維持管理・緊急時の対応等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○施設設備の保守管理・修繕 ○施設の保安警備、清掃等 ○事故の防止措置、緊急時の対応 	3	○おおむね協定書の内容どおり適切な管理が行われており、計画・目標に近い実績を達成している。
<p>【施設の利用の許可、利用料の徴収等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○利用の許可 ○適正管理に必要な利用者への措置命 ○利用料金の徴収、減免 	3	○おおむね協定書の内容どおり適切な管理が行われており、計画・目標に近い実績を達成している。
<p>【その他管理施設の管理に必要な業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○利用受付・案内 ○附属設備・備品の貸出し ○利用指導・操作 	4	○協定書の内容以上の適切な管理が行われており、計画・目標を上回る実績があった。 (コメント) ・利用者から要望のあった実験分析機器のメーカー担当者による使用に係る説明会・研修会を実施。実際の使用時にも財団担当職員による機器使用のサポートやテクニカルなサポート・指導を継続的に行うことで、研究者の操作技術と研究の効率の向上に成果があった。 ⇒9回実施(延べ参加者数72名)

<p>〔利用者サービス〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○開館時間、休館日、利用料金等 ○利用者へのサービス提供・向上策 ○施設の利用促進 ○個人情報保護、情報公開 ○利用者意見の把握・対応 	4	<p>○協定書の内容以上の適切な管理が行われており、計画・目標を上回る実績があった。</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大手企業へのPRと県の経済成長創造戦略を意識したパンフレットに刷新。専門展示会等でバイオフィンティアの施設・入居企業等の紹介・情報提供に役立ち、施設とバイオ技術のPRに成果があった。 ・研修室及び商談室にWeb会議システムを整備した。 <p>⇒人財育成セミナーの遠隔地受講が可能になるとともに、遠隔地のセミナーをバイオフィンティア内で聴講することも可能となった。</p>
<p>〔利用者総合支援業務の実施状況〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○利用者の研究開発及び事業化推進(事業計画、進捗状況把握等) ○利用者のニーズ把握、情報提供 ○人的ネットワークの構築 ○事業運営委員会等の運営 	4	<p>○協定書の内容以上の適切な管理が行われており、計画・目標を上回る実績があった。</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内だけでなく海外のバイオ系大型展示・商談会に出展支援を実施。創業ベンチャー等が持つ資源と大手製薬会社とのマッチングの支援を図った。 <p>⇒BIOヨーロッパにブースを出展し、入居企業3社がポスター展示を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特許の調査、アドバイス等をとおして、事業化に重要な知財戦略をサポートした。 ・鳥取大学染色体工学研究センター及び入居企業と米子工業高等専門学校との医工連携研究センターとの共同研究推進の橋渡しを行った。
<p>〔バイオ人材育成事業の実施状況〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人材育成カリキュラム作成・研修実施 ○広報等 ○事業評価、ニーズ把握、効果検証 	4	<p>○協定書の内容以上の適切な管理が行われており、計画・目標を上回る実績があった。</p> <p>(コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者から要望のあった実験分析機器のメーカー担当者による使用に係る説明会・研修会を実施。実際の使用時にも担当職員による機器使用のサポートやテクニカルなサポート・指導を継続的に行うことで、研究者の操作技術と研究の効率の向上に成果があった。 <p>⇒9回実施(延べ参加者数72名)(再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイオに関する知識や動物実験技術の向上、創業、知的財産に関する講座等を開講し施設利用企業等が求める人材の育成を図った。 <p>⇒13回開催(延べ参加人数350名)</p>
<p>〔収入支出の状況〕</p>	3	<p>○おおむね協定書の内容どおり適切な管理が行われており、計画・目標に近い実績を達成している。</p>
<p>〔会計事務の状況〕</p>	3	<p>○おおむね協定書の内容どおり適切な管理が行われており、計画・目標に近い実績を達成している。</p>
<p>〔職員の配置〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○業務全体の総括責任者 ○染色体工学技術を中心としたバイオテクノロジーに関する専門知識を有する者 ○動物実験に関する経験者 ○利用者の要望に応えられる体制 	3	<p>○おおむね協定書の内容どおり適切な管理が行われており、計画・目標に近い実績を達成している。</p>

[関係法令の遵守]	3	○おおむね協定書の内容どおり適切な管理が行われており、計画・目標に近い実績を達成している。
総 括	3	○おおむね協定書の内容どおり適切な管理が行われており、計画・目標に近い実績を達成している。

《評価指標》5: 協定書の内容について高レベルで実施されており、また、計画・目標を上回る実績があり、優れた管理運営がなされている。

4: 協定書の内容以上の適切な管理が行われており、計画・目標を上回る実績があった。

3: おおむね協定書の内容どおり適切な管理が行われており、計画・目標に近い実績を達成している。

2: 協定書の内容に対して不適切な事項が認められ、また、計画・目標を達成していない。

1: 協定書の内容に対して重大な違反事項が認められる、指摘済みの不適切事項が放置されている、計画・目標、前年度実績を大きく下回っているなど、大いに改善を要する。

※総括欄は、各項目の平均の小数点以下第2位を四捨五入した数値を基本に、総合的に評価する。

(別表1)

実験室等

名 称		面 積	備 考
1階	オープンラボ	214m ²	
3階	実験室 (4室)	311、312	37.47m ²
		313、314	38.67m ²
	動物飼育室(4室)		10.53m ²
	居室 (4室)	301、302	20m ²
303、304		20.6m ²	

研修室

名 称		面 積	備 考
1階	研修室	42m ²	

開放機器

2階細胞実験室	2階遺伝子実験室	2階機器分析室	2階試薬管理室
クリーンベンチ	安全キャビネット	サイドオープンL型ドラフトチャンバー	小型動物麻酔器
オートクレーブ	オートクレーブ	サイドオープンR型ドラフトチャンバー	薬用冷蔵ショーケース
倒立型蛍光顕微鏡	小型冷却遠心機	動物組織固定装置	薬用保冷庫
オールインワン顕微鏡	ゲル撮影装置	密閉式自動固定包埋装置	超低温フリーザー
大型遠心分離機	微量サンプル計測設備	パラフィン包埋ブロック作製装置	
遺伝子導入装置	分光光度計	マイクローム	
生物顕微鏡	PCRマシン	パラフィン溶融器	
実体顕微鏡	乾熱滅菌乾燥機	パラフィン伸展器	
インキュベータ顕微鏡	実験用器具自動洗浄機	感染防止対策用クリオスタット	
セルアナライザ	超遠心分離機	血液生化学分析機	
発光ライブセルイメージングシステム	化学発光・蛍光検出機	全自動万能回転型マイクローム	
培養細胞リアルタイム発光計測装置	多検体サンプル粉碎機	プログラムフリーザー	
プレートリーダー	超音波サンプル粉碎機	超低温フリーザB	
CO ₂ インキュベーターA	リアルタイムPCR	薬用冷蔵ショーケース	
CO ₂ インキュベーターB	遺伝子抽出装置	薬用保冷庫	
CO ₂ インキュベーター(一区画ごとの貸し)	共焦点顕微鏡	薬品保冷庫	

出し専用)			
超低温フリーザA	染色体解析専用顕微鏡	薬品冷蔵庫	
薬用冷蔵ショーケース	マイクロダイセクション	実体蛍光顕微鏡	
薬用保冷庫	バイオサンプル粉碎装置		
細胞保存用液体窒素タンク	冷却大型振とう培養機		
	冷却小型振とう培養機		
	大腸菌培養用インキュベーター		
	薬用冷蔵ショーケース		
	高感度冷却CCDカメラ		

(別表2)
実験室等

名 称		面 積	利用料金	備 考	
1階	オープンラボ	214 m ²	310,300 円/月	電気代・水道代は 使用実績に応じ別 途徴収	
3階	実験室 (4室)	311、312	37.47 m ²		54,330 円/月
		313、314	38.67 m ²		56,070 円/月
	動物飼育室 (4室)		10.53 m ²		15,260 円/月
	居室 (4室)	301、302	20 m ²		29,000 円/月
303、304		20.6 m ²	29,870 円/月		

備考

利用期間が1月未満であるとき、又は利用期間に1月未満の端数があるときは、日割りをもって計算するものとする。

(別表3)

	名 称	面 積	利用料金	備 考
1階	研修室	42 m ²	252 円/時間	
	備品等 プロジェクター 会議用モニター スクリーン 暖房又は冷房		470 円/時間 470 円/時間 100 円/時間 78 円/時間	使用したとき

(別表4)

開放機器

(ア) 時間又は日単位で貸し出すもの

階数	区分	単位	利用料(円)	備考
2階	細胞実験室、遺伝子実験室、機器分析室 動物飼育室(実験室)	1 機器当たり1時間につき	110	・一般機器、専門機器が対象
		全機器を対象に1日につき	3,130	・一般機器、専門機器が対象
		一般機器全てを対象に1日につき	1,030	・一般機器が対象

(イ) 日単位で貸し出すもの

階数	区分	単位	利用料(円)	備考
2階	細胞実験室、遺伝子実験室、機器分析室	1 機器または1区画当たり1日につき	110	・保管系機器が対象 ただし、冷却大型振とう培養機、冷却小型振とう培養機以外は、1機器の区画を区切った利用を想定
2階	細胞実験室、遺伝子実験室、機器分析室	1 機器当たり1日につき	220	・CO ₂ インキュベーター(1台利用のもの)

※1日は、午前9時から翌午前9時までとする。

◇一般機器

2階 細胞実験室	2階 遺伝子実験室	2階 機器分析室	2階 試薬管理室
クリーンベンチ	安全キャビネット	サイドオープンL型ド ラフトチャンバー	
安全キャビネット	オートクレーブ	サイドオープンR型ド ラフトチャンバー	
オートクレーブ	小型冷却遠心機	実体蛍光顕微鏡	
倒立型蛍光顕微鏡	ゲル撮影装置		
オールインワン顕微鏡	微量サンプル計測設備		
大型遠心分離機	分光光度計		
遺伝子導入装置	PCRマシン		
生物顕微鏡	実験用器具自動洗浄機		
実体顕微鏡			
CO ₂ インキュベータ ー（一区画ごとの貸し 出し専用）			

◇専門機器

2階 細胞実験室	2階 遺伝子実験室	2階 機器分析室	2階 試薬管理室
インキュベータ顕微鏡	超遠心分離機	動物組織固定装置	小型動物麻酔器
セルアナライザ	化学発光・蛍光検出機	密閉式自動固定包埋装 置	
発光ライブセルイメー ジングシステム	多検体サンプル粉碎機	パラフィン包埋ブロッ ク作製装置	
培養細胞リアルタイム 発光計測装置	超音波サンプル粉碎機	マイクロトーム	
プレートリーダー	リアルタイムPCR	パラフィン伸展器	
	遺伝子抽出装置	感染防止対策用クリオ スタット	
	共焦点顕微鏡	血液生化学分析機	
	染色体解析専用顕微鏡	全自動万能回転型ミク ロトーム	
	マイクロダイセクショ ン	プログラムフリーザー	
	バイオサンプル粉碎装 置		
	高感度冷却CCDカメ ラ		

◇保管系機器

2階 細胞実験室	2階 遺伝子実験室	2階 機器分析室	2階 試薬管理室
CO ₂ インキュベーターA	冷却大型振とう培養機	超低温フリーザB	薬用冷蔵ショーケース
CO ₂ インキュベーターB	冷却小型振とう培養機	薬用冷蔵ショーケース	薬用保冷庫
超低温フリーザA	大腸菌培養用インキュベーター	薬用保冷庫	超低温フリーザー
薬用冷蔵ショーケース	薬用冷蔵ショーケース	薬品保冷庫	
薬用保冷庫	乾熱滅菌乾燥機	薬品冷蔵庫	
細胞保存用液体窒素タンク		パラフィン溶融器	

(別表5)

ゲージ管理料

場所	利用料	備考
3階動物飼育室	1ケージ1日あたり40円	